へ5
1977
1

1077
2

特
へ5
1977
1

乃けはひまさしくあふくをいよくなるべし
やまとうたのよつてハ紀貫之が古今
和歌集序に筆をとゞめてあらはせり
されバ其傳授をうけて血脈をつたふ
ることの手より落べしや中にも六義
をもつぱらにして金言をも丸乃つて
しるかぎりいのちをさに（わ）すれん事
をえあらず御まかせこそれまことなる

たゞはいかなる事然るべし其雑躰のうち
にも誹諧哥あり此躰ハなるこのなりて
にもうるはしからぬものなりとて京極
黄門も書をとゞめ給ハずとや何ぞや
もちろん和哥の道ハまさにそれ
にて連歌ありて又誹諧の連哥あり上古
のうちに八大むね誹諧に同じ何の
まにあるまじからん由来久しくそれの誹

諧ハさらすなる毛のゝくちさきまて紙
もてあそひくさとなりたちぬれは
松もつるもやゝ誹諧なりける
こや大和ことのはにまさりてさとし
なそ流ふまり川る事をなりけり
近来世上にもはやりて京も井なかも上﨟
も下﨟も春の花乃あしたに秋の夕
への月あひにも誹諧をそえせされはなり

なとみのつかまにくれしよて座並のちね
独ひねるりわきそなれぬるかく世人
乃いききなりかし賦をとさまさおほく
誹諧のみちまおこらん嘆記しるは
誰そりや其根さしハ松永氏逍遊軒
貞徳公翁といふ人あり元亀二年辛未に
生る華洛に住まとしもる事久しく市
中隠士乃遷士也毛ろくの芸苑にあそ

ひあるれハうみのきり乃毛とのさねをよする
むかしハ山鳥のいさ栗毛さへいたらぬの
床の苔むしろ志き浮のみちにあらぬ
事世にこそ隠るゝわれハ宮にこそれ
風月のすゑとあるのあまり誹諧の道こそ
うちあけり滑稽のこゝ縁このめかうたと
いへ誹諧とふれ貞德の門にいるものそ
かくれ縁よりまた翁平生の著述をよみ

うちに今又宮かしこより雌黄のくち
をくられたる歳旦句の秀逸をとゝのへ
あつめて世にほとこさんとて名け
なれ崑山集玉海集とふ崑山を前集
とし玉海を後集とよふ前集を既
慶安四年仲秋にその功成ぬ後集ハ難
波之のをくり集まれる誹諧の道
ふ日ならで日あつめてむくるまるゝ儀成

病にかゝりて承応二年癸巳十一月中の五日
いまそかりけるかみまかりて終りをとられけり
其齢のたかき事ハ好終の年暮にあり
といへとも惜むへし誹諧乃風灯一時に
きえて道のひかり絶にたる事
をおもふ何の世にかハまたかゝる
なけきあらん陸平原か子書ほとりて
いまたみなもしらす其終にのそみて書去

なけきなからみ絶乃この世にそ郷より
ちかひて此集ハまたなにしへある所
重し門弟子に貞室生と云ありて幼少
より学をこゝろさし人となりて誹諧の
みちをあふきてわか心をえたりけれは
事ともたつねきこえし時ゆるしむ為にし
人をしめたまひつきてほむ中比ハ猶いとゝ
かやうにいよし心のまゝにあとをたつねおきて

まされとなるして石亀の功をなせ
又發句綾吐ては銀針を俗耳に投
利文章をと裁しては金篦凡眼のうへ
ひろときる和語のみなるもや誹諧速
式をとあらため其文又奇也師につきて
事廿六年一事もそのいはゆるかくし陳
后山か他の師にうつるも曽南豊かあとあけ
妾薄命の言をふるとあらかせすまじきもまさき

杉谷師も又其ところにしたがひて
誹諧の家督をとゆづりしもあまたし
き作者なかき中に其楚をかへ第
一の人とえらびて師の遺言をうけて海
集乃檃を引く仲長統か昌言を董襲
撰況し桓譚か新論を班固このなにし
同し其流のわかれる事器の水をとう
係して絶きたること師資乃けちめ綾

みな先に承られし發句付句九百八十
餘になりぬる所をもつて三千貳百余句
清書しけるにつけて崑山玉海乃二集と名つけ
乃いまをさまりぬるところの山おろちの首尾
あれとも乃はかりて明暦二年丙申乃孟春
梓にちりはめ世にひろめむとするよ
ろこそしられもや室ハちやくやはかれ
の母乃酒のうましのとものこさなり此

集のなけるを見ても是を序にかゝん事
求むふそのよしをみなきゝ毛吹を誹諧
よりつぎつけて寶の扉をとそちとさし
毛室なよもとるなれ玉のねをはなちく
ちりしみあゆもつくしはもる崑山の光
求めて弱のみこまれてこやの世なる玉海に
ちようかなるそふ柳のほうをろへんまる
まちかきのそくしのみ手代かへて珊瑚

珠まきをはなむてあやなくれと辞
もなるはと闕なくして聊もいまたの不
或毛まことはみとかあ太居し嘆比
浪志はのと風格きまはるとさてあづ
残さるのしむ此誹諧ととてあるらむ
人は左りは文のあやまちのろ錦まし
右よは毛のさあやまちはさいせよなるを
むら言葉の種なるもこれとそなるれしとそ

明暦二のとし弥生の廿日あまり
あまりはるの日

池田氏正式謹序

玉海集題目録

春部

第一 立春　第二 毬打胡鬼板　第三 氷様 付腹赤
子日　若菜　懸想文
左儀長 付赤粥　踏哥節會　具足餅
霞　鶯　梅
春氷　餘寒　初午
佛別　春雪　春雨
柳　松若緑　木目
椿　土筆　蕨
花　櫻　櫻鯛 付櫻貝 櫻海苔
苗代 付耕田　角組葦　桃 付上巳蓬餅
鶏合　雲雀　春鷹
春鳥 付鳥巣　燕　帰雁

雉子　蝶　蛙
春駒　茶摘　菫
春草　春月　躑躅
藤　欵冬　海棠
梨花　杏花　木蓮花
春郊二　永日　三月尽
雜春

玉海集巻第一

立春

御せいもん乃君に来てあふや千代乃春
逍遥軒明心居士 貞徳

先よりさき御酒合點

治まる氣や凛とく川御代乃春
和州郡山池田氏 正式

天乃時も地乃理も宇川やならふ春
馬渕 宗畔

治るや実まことに御代乃春
敦賀太井氏 重次

あの御方にて屠蘓を捧て

君か代やいはふ屠蘓白三ケ白
播州姫路□武氏 三吉

めでたしくめでたかりけり三ケ日
正章子十歳 元次

かゝさそめ代はいわふや三ケ日
播州大坂上村氏 重貞

わかさそ花や氣も揮筆乃和合示
清水孫三郎 政光

靏乃巣に門松よりかさね葉
久馬氏玄安 壽白

門松ハみんなをとめてたゞ千固か
播州大坂井田氏 長之

姫松は門よりまさる千とせかな
正章子十三才 光次

門まつる松ハ己ぞ隣来なかな
秋田常福院 宗寿

門松やさかりの對乃花乃春
寺町□□寺 恭田

旧冬十九日に立春侍る年の元日

鶏鼓こそいつとしの花の春
摂州大坂 佐藤氏 宗甫

四方にかはや花月相花乃春
長崎 野沢氏 玄哉

我も人もゑみやふくめる花は春
摂州大坂 井世氏 行正

むらさ川とはもみしくや花乃春
播州姫路 河村氏 風子

正月ハ生れもとらぬ長者かな
敦賀 大井氏 重次

いはふ餅ハ幸菱よくふはろ
薩州 杖温

生まつくめてたき物ハ雛薺かな
摂州井原住 玄孝

若ていふ人毎にたつふくは菜は小袖
薩州鹿児嶋 大山氏

めくりきつとしハおそくは茶麿ハ
東大佛 谷氏 常恥

かけ鯛乃ひまもいつつや若恵比須
津田治兵衛 友正

あけて今朝廿女結乃としをかな
秋葉八郎兵衛 利當

元日は錦に染てや四方乃春
西田三郎兵衛 政次

あふきまつや光源氏乃御代の春
元知

あらたまや大黒乃持如意宝珠
摂州大坂 武野氏 倭與

去年は雪あらたまりたる今朝
南都生嶋 不見 行恵

書始りくれハ
ちとせやよろつ代ハ御幣乃神の春
京五条 辻氏 慈春

摂州へまかりし時彼とま
りといふ所にて越年して

かざり縄くりもの宿や彼とまり
摂州大坂伊勢町 之次

かざりまつ入けふ大かんのくら庭小
摂州大坂川崎屋 友並

寺中の総菜は

寺かざりやかりになふろかざり縄
摂州上牧 文索

子乃年にえりは

佐保姫をも上臈かよ見ちや見
中川氏 春雲

佐保姫や京まてゝん一代京乃母
加州大槻氏 一理

毎小ぶりつく来るやさほ姫浦にも去
摂州大坂 如貞

年波に寄にも齢やた祝詞
京清水氏 言聴

年明ていふ禄をあけたり秋津島
摂州上牧 元寄

去ゝ川白

くみそめよ若水乃さそひのいろひ
京本間氏 交信

わか水いくめとうきまね越前名
摂州大坂秋葉氏 利當

去ゝ川白

百首まとひふや巻頭太郎月
京清水氏 言聴

菓子ハ無所なれやさ太郎月
播州姫路 可重

ふりさしてめでさい乃掛れむ月かな　東福井氏 宗重

むまの年や寅の錢をもつて大豆　東寺町豊畏 元重

年玉や四方ふりつく白れおかし　紀州粉河住 無分

ゑもちらかつてれミ川のほしかな　有馬氏玄安 寿白

地梅香万葉集や庵とれる　摂州大坂 貞因

年頭ある人のもとへ葉書を
遣はすとて

一梅しに千代乃春ふる葉せんなる　作者不知

立春 付 若水　愚判

御成門ハ大名行乃かざりかな　有馬氏玄安 寿白

寿ゝ代ハ久しかれとれて弓神免　梶山吉右衛門 保交

酒も名まあふや乞しつゝ御代の春　一寺

神祇官まみて
神まゝも酌ていちふや屠蘇祝けむ　恵佐

みし着いちかてくむや八重霞

梅かえしに立春ありぬれて　東油小路花井氏 秀朝

去年今年けふ紅白にかすミ哉
東武類屋吉兵衛
政信

春来つれ皆例より川霧かな
井上彦兵衛
利昌

何の玉ハ色も名高くかすミかな
武州白戸住
正賀

あら玉ハ地にも福神まんしゆうる
東七条茨木氏
宗真

玉津嶋乃たのしみかこふ不和哉
ことまつりて

稗め海何の玉津浦神乃たる
紀州和哥山目良
貞長

神代春や心よりけふ紅白
勢州無名住
良利

知る紀綱の暦やつきさ川神代春
摂州大坂住
好道

かざりを蓑代としてもみて
宝流も腰蓑めすゝかさりそう
摂州大坂井田氏
栄春

十ゐ宝手まり行かし
七五三やかさりそうつかし代春
播州曽根村菅原氏
貞継

家代ゝ腰ふハかさり童部か
恵佐

かさり藁も穂長やいそふ何き咲
野崎氏
元易

清とよりもそゝろかさる年始か
尾州
元世

春ふ川とよみ春てすゝやかさり竹
紀州和哥山黒村氏
玉心

世中ハ清てふいるゝやかさり竹
正成

春よりもなかりしませかりかざり縄　摂州上牧之住　文素

年の緒とは是をいふべしかざり縄　播州姫路武毘　三吉

めでし此緒やいく世ふり千代の春　盤州石谷　大入

めでたさはにのことふきせましをみそ

お歯黒の筆や試むる佐保姫御　五侯之住　燕石

去物といふんもそろしいかなる　摂州湯山住　重層

写方に梅咲く家ぞ乃待許かる　摂州大坂平野や　永雪

がしさてもふるきさしまに吉書哉　東六条下村氏　文角

年徳此神乃牛王は吉書哉　播州姫路　之留

毎ありける年の元日に

年徳は東をうかがふすやと鈎の毎　泉州堺寺本氏　一守

わかやぐといふは年徳のちからなる　和州郡山都筑氏　直成

ものえひを拵て料紙やふくれつゝ　播州姫路　幾重

神代よりながれぞ御影の恵比須　京油小路四村氏　吉次

神さいをかけつかやる恵比須　内田氏　平吉

白紙をうつしをいのる恵ひをそ　川小平　吉次

春乃日まちやもよし何恵ひをそ　伊田長　可采

よしや見このないうく我恵比須　備前石原氏　正成

大黒乃用帳なれや蔵ひらき　播州曽根村菅原氏　貞継

熱田にて

日本武三ケ日いはゝ神乃春　尾州熱田[illegible]鶴氏　[illegible]季

一八先二氏生するや三ケ日　備前神林氏　貞次

古川義代よさ方角や三ケ日　京姉小路児山氏　限光

あさきりる破魔矢をこし朋めん　小松原梅要子　時明

としの矢ハなゝより祝ひ深雅ん　東六条伊勢氏　祐孝

弟ハ事上みきのハ種乃元方かな　和州郡山梶氏　勝重

年玉ハとまろうぞても元方ん　播州三木　可发

此しきハ左風とおもく扇かな　僊窓

としの塗代かさもらいおろ試筆ん　山本善兵衛　善入

埋木をはなやさきは川や花乃春　池田佐伯八兵衛　妻

ねかろなといそふところあめや老の春　和州郡山池田氏　正式

松竹乃ところめでたすや門乃くち　播州姫路村山氏　凬子

門乃松とし経ろこそめでたかれ　大沢清七八才　生敬

門という字なりけり似たりかざり松　岩井市良兵衛　常久

門松ハ先年より乃恭例かな　玄毫

門春ハ陰陽二季乃さかいかれ　紀州熊野良任坊　如海

門松もかさりこさせね鶴かな　和州郡山池田氏　正式

名に立や是も山城乃葛野松　恵佐

元日ハ雨ふりけれハ

門松も大木となれ今朝の雨　并類屋茂兵衛　政信

立春霞を

春ハ霞りし窓よりしら川やそ霞　葛野九兵衛　定之

春ハ葉さへ冬ハ立春乃花香哉　和州郡山　定幸

大ふくの茶摘けりや老乃春　勢州桑名味世氏　俊治

江戸ゐろく

大服をとふかてそむかし江戸茶の家　円播　正安

大ふくの茶嘗せよし梅法師　川小平左衛門　吉次

梅干やおふくの茶乃すさまし　京河口市左衛門　保成

我人春もきらひれ柑子何や極　京平尾氏　幸以

王春とふよ哉

三文字そし川一天乃春白かな　青地氏　可頼

よ人ハ除我天下日待そ今朝の春　小川　貞與

春代日や天の戸明てはぬよふり　播州三木五百　成下

元日立春なりし年

年と去と白川天神やめしの笹
和州郡山池田氏 正式

天の戸やゆるく一枚御代乃春
泉州堺之住 貞成

去ハ白ら人ハつくりよ礼者かれ
摂州大坂平氏 伯貞

去ハ去ら我ハすゝるやかゝみもち
紀州和歌山日高氏 貞長

年ハとしよりいりて
むかしハ年ふるこそや讐乃かゝみ餅
国枝出雲 直旨

龍田山よりよむ歌えらむかしの年
和州龍田之住 草栖

若もし木ころあかりとみるや年ハ年
京五条副田氏 光舟

来る年ハしらとみるくさる馬醫蔵
越前福井三隅 竹雪

としハむかしのつのまちや去ハ貞抱
尾州石田氏 正奥

年ハむかしの元日ニ
去ハ白やくふかく年も年乃影
文川江戸住 長之

年よりやよきにとしの年ハ年
京野口氏 正寿

くふよろ川よたまや流を世の春
粟名之住 杢芝

うしのとし立去おそ
くりくれそ
うしかけてくるまや走さ花ハ去
周防多田氏 正安

年徳乃神や天神うしハとし
志多久氏 杢能

くる春や東天光れとりのかし
紀州熊野之坊 圓恵

来る年は卯の明て座敷や福の神
播州姫路坂内氏 文

ひそみしも陽氣を吹てや辰の年
和州郡山正式内庭 玄利

春駒の来る春もたつのとし
ひ川し辰年
紀州和哥山日方氏 貞長

未明よりくるとしハけふも来るる
武州江戸源姓 吉言

庭訓も蓬莱も春乃くしめ小
山家ぞ春よ
京高橋氏 充信

山家のも花咲をくむいち升かる
紀州和哥山日方氏 貞長

すゞしや乃孔明水くむや御代の春
摂州大坂早瀬氏 定里

月出る光さハすくろくか代のさゝよ小
丹波氷上郡玉巻 重成

おくりよりあの目出度こと〳〵しかる
濃州大田氏 吉久

あふさ古年ふまさらハ懐ふ三年小
子代まつけけるあふる年
加交

年ひと川まをせハまさ礼る二とし小
福寿ま男子をまつけて
添た名と名つけてかしつき
ける人のかとあく南庄
京婦小路児山氏 光屋

あらたまのやうふ子の名や太郎月

澤田氏 求交

春立日佐保姫と太郎月ハ
女まゝなと云あるとやそ
佐保姫乃せうとなるへし太郎月

尾州 有也

松くしまれしちとせ
うらひと一あるうちをまつて
みとり子も老松の根やうらひそめ
うらひ様よ祥とみてうり松かせ
お志なへ人そりしめとよ

東叡上山氏 信光
江戸源姓高木氏 真義

後連をとかくしひそれそ
年北をつまて川表やひろ敷
志ハすうしまうけかそえ年男

西田ニ 元知
大河内 吉之

丙申のわしの元日よ雪隠
くれそ
雪ふ小籠としそまゝらわひみつか
詣もこよし志学乃初詣かれ

和州郡山 正武
正武子十五才 正親

元日よ暦をみそめ候かて
開ときみの暦ハ梅かか乃ええ那

丹波福知山 吉治

三方もてなしかゝやよし吉　萩野 安静

元方はさるの方にあたり
さるとし

元方よりたつや猿とりの花の春　同

卯の年卯の元日ゝ

兎文年や日もとうらんけの花の春　季吟

屠蘇乃酒ハ何り玉盃乃小亀ニ　同

あたご山や今鈞せいさい乃春の色　貞室

御代もく年ゆるや國はうこ之雲　同

てんかくちひねハ筆乃若水に　同

出福もまるやかすミ乃立すゝ　同

拾穂席季吟子誹諧乃書を
かきそへられ小題号をこ
されしかれふ山乃井と名
付くはへし何らよ好て
その竟寒乃命をとゝめか
よれゝ叢る

山乃井にあくもぬけたる試筆に　同

鏡餅よそふうとも内侍野若々分　同

むめのえたやよ孫一御料代かゞ見餅　同

佐保姫をむかへやら志とめかさる宿代春　同

何かたまりあてまりたる春日氏　同

寅の年の元日卯日よ慶

けう心代

年月日寅卯よろしハかまいくる　同

十二支の枝りやひとくとり代花　同

いかし年　先師長頭麿

より誹諧乃道ゆつり葉代

若紫えしことハ人もなきあの

かさり藁ともおもひなし

ゆるん代

椋ともてなそめいわく乃花雲　同

毬打胡鬼板　先師跡

ありくもふりさけみるや玉乃塵

京寺町末　可頼

さまつくはさこいてひあ子九小　摂州大坂久在衆 蒲永

愚判

をさなくてをさ梅や流るゝ鳥の羽　河州枝松住 忠政

をさ梅乃綺模様花や風の雲　江州大津久住氏 季政

破魔弓の矢にさゝりや千鳥の羽　摂州大坂彦三郎 常知

氷模様　付腰赤

愚判

鹿の海やあつさふ海すら氷柱　河州清水氏 春霄

あまれのつゝ鯽鰤よりや鰆の魚　一充

腰赤なくて蔵光もますや代々の雲　奥田浪其丈 政之

子日　先師點

春ハ野よ人こ子日のおそひかれ　半田吉廣 光行

愚判

姫雲や若も子日のおそひ出れ　貞因

松なくて祈心をひく子日かな　尾州伊藤氏 一和

田日ふ子日あり心と

正月の子のこもえ川の一日かれ　正如

腰かゝし子日の宿やいさり松　季吟

空それく誰もわすれさ子日かな　貞室

盧何法といふ人子ともまうけ
たる祝ひの會に

風やゆふつる禄に子日の姫小松　同

若菜　付芹　俳座　先師述

うはなりか若菜もたゝくまくらき　将類屋濱松　政信

あくかつむあかりやそこれ芹畠　和州郡山池田氏　正式

若津ある津難波てつむや三瓶芹　摂州大坂伴傍村　之次

振り袖にすゝ菜も汁むや三番三　正章子十一才　元次

雪汁乃中にゆふなゝ菜切那　丹波福知山一井氏　重治

まろよきとまけ若のふや若菜　武州江戸　素砂

蒔なるや行よせるてうゑるき　紀州粉川　岳分

摘とりてよふすへあふたゝ芹　和州郡山郡氏　云流

獨菜をとらぬそやらん佛乃坐　摂州姫路三木　知重

壬生ハ地蔵菩薩やゆとつめ仏坐　寂光寺　養圓

佛乃坐あや氷つまてしとすゝ見　作者不知

わとほりすさみすや身新乃仏の坐　貞典

愚判

垂氷や氷きえる瀬ゝくらも葉　攝州大坂梶山氏　保交

谷のやうな雪清くつむ若葉か　勢州桑名住　良利

半分は田地よりわるや佛乃坐　播州飾ノ脇氏　清長

ゆつりをやをやりくらよ仏の坐　攝州大坂□屋氏　長繁

木種ちらりひらたく佛乃坐　江州大津高橋氏　正信

佛の座さいさく芽やつくし　江州大津□村氏　重連

仏の坐生ずる野をるや嵐毘園　大坂住　撫石

佛の坐摘ても十乃まんけるを　五条於きま　勝房

つむ摘や深隠の下敷かけの坐　攝州大坂棉嶋氏　得和

野の霧はやくわらいも佛乃坐　恵佐

道芳ふ

道廣き野ハ極楽や佛の坐　横田　重次

悲母の土恵よ

菜ハ花乃臺にのせる佛の坐　貞室

こもよいよ餅黄んとつむ若葉か　同

個せしや若葉はねそくかんの君　同

七種をはやし袖てや七はやし　同

七種乃数ふとりやせくひそな　同

隣侍りたきあひさるまへ　同

地乃庭に宮川出す稲せりの那　同

懸想文　先師題

けさうふみうるおとこの乞てれ
きよふみとさて

けさう文うるや弁吾太郎月　播州姫路當民　三吉

左義長　付赤粥　先師題

左義長に兎まもおもひて寝る子　京平尾氏　幸以

愚判

浅ましもあはぬゆいさ音去所　京川　長之

踏哥節會

十六日乃夜宮酒のれハ

宮やけよおとこたうたれか付　貞室

具足餅

うへ帯の具足れ餅の注連かさり　中嶋内藤氏　貞晨

霞　先師點

梅乃木に衣きせたるかすミかれ　摂州大坂大佛所　[illegible]

朱川とやいろんかすミれ中の虹　丹波福知山山田氏　利之

愚判

雲乃上ふ裾をと川やうす霞ル　恵佐

庭から山川まてかすミかな　摂州大坂[illegible]氏　栄甫

山も今ねむりさめ眉にうすかすミ　肴類屋長兵衛　政信

八瀬山は餓鬼川するやうすかすミ　徳窓

あてもなき戸隠山乃かすミかな　可全

あれは花乃香より衣のうすかすミ　但馬生野中嶋氏　安永

薄霞のしめる山乃あしかゝり　濃州　蓼哉

もゝ川のかすミ乃かゝる雲のあし　尾州　有也

風さそふ霞乃衣やうハあるらん　南都住　保好

菊叙一見の时

大佛に斗帳をかくるかすミかな　摂州湯山住　三章

唐網かとるてしか原乃鶴かすミ　備州安倉氏　章輔

西乃白は霞や酒乃くろたより

紀州补蕟山かく女す二代　貞室

右連まれ乃り南海乃かたより

なかさをみく

見わんのこれミたし川芸かすミ　同

鶯

先師跡

共布称よて鳴鶯や旋頭寺　播州姫路相坂氏　安坡

餅梅に飛らくひすやまるこ多　東大仏川橋氏　息女

西後乃うくひす氏　江戸住一ヶ坂氏　但秀

鶯は都や京ハ大もと乃寺　江州草津住　重道

竹に生れ鳴うくひすや笙ハ笛　京西田二字嶋　元和

花梅かおきち風まて白ひより　同

もろかすく人さく犬かつ紙金衣鳥　薩州鹿児嶋大坂氏　政重

金衣鶴鶯御經乃禅やなる方寺　寺町寂光寺　泰田

うくひすハ如き是ハ琮智のさとりや

うくひすも音やそろ〳〵白みそめゑ　越後柏崎之住　杣邦

鶯　愚判

むすひわやうくひすのよむ哥の海　徳窓

鶯や詩をゆくよむ哥乃さ海　同

うくひすの音ハさけあるそやし　阿州[illegible]有畏　正吉

うくひすの囀りそのや哥林苑　春霄

梅乃家になくうくひすや神楽哥　播州姫路[illegible]氏　吉長

梅ちりてうくひすかそや花の兄　播州姫路　浅[illegible]

うくひすのなけハ糸ふや花のかけ　東大宮[illegible]氏　氏長

やりむめふつくハなるくゝ金衣鳥　尾州　有也

折ほ花や匂ふくゝろ手金衣鳥　濃州竹ヶ鼻[illegible]　吉久

うくひすハ梅乃暦の博士かな　備中吉備氏　信元

よむ哥もかの川鶯やかんさ他　濃州山縣氏　藝哉

哥志らさハ鶯ふかよまり息かな　摂州大坂之住　常知

うくひすハ哥おゝとりそ〳〵と鉾　東海[illegible]　正頼

うくひすの笛や茶内太郎月　沙門　静山

うくひすや花梅よろしく紙業琴　恵佐

うくひすの笛やひちやらひやうらく　同

うくひすやされてむめのこや雀　貞室

獨吟千句興行し

うくひすもこゑうれ御代を初音かな　同

梅

あら人の夜まても宮乃

俳諧独吟百句せし時

花も香も梅八宗祇乃こゝろかな　宗祇法師

先師聡

これ花のさくや仁徳天皇よし　摂州大坂住　貞因

文の遠忌追善に独吟千句

志侍し巻頭に

難波津乃花やも向乃宮の文　摂州大坂之住　交直

難波寺乃手習子らや花乃兄　東五条松本氏　永定

みめのよさ是よ川花乃小梅かな　摂州池田佐伯氏　正弘妻

花の香や猫食中代むめのやり　薩州鹿児嶋　兼次

梅の家や数寄つとりて梅法師　東西田三郎兵衛　元知

咲花乃先ちかなれや梅乃坊　　同

北ハよりすまさんための窓乃梅　　摂刕大坂之住　寄清

梅落てまつりをする花見かな　　同坊小川氏家来　長伯

山崎宗鑑法師の旧跡見に

まつりけるよ庭の梅の咲そ
侍りくれた

ちらさ物ハさくをおやまし梅の花　　季吟

こやしめりすつこ天王の綸旨梅　　摂州大坂之住　如貞

綸旨梅さ須もらんおる花親仁　　春[illegible]

月くに咲徒梅の名もかな那　　播刕姫路之　知[illegible]

徒梅よ夏を洗つもこゑよ春の風　　摂刕大坂片山氏　秋月

天神乃ちらまさられやこ和れ梅　　丹波福知一井氏　元重

小野氏家司方ゑとてすゝめられハ

梅ハ知しく八たんさるゝ小野かな　　和州郡山池田氏　正式

愚判

梅か香ハひかけたと白ふちるゝれ　　前世寺大渕和尚　玄弘

春風やさそても白ふ梅乃ちれ　　尾刕名護屋　兼勝

雪するやくれ人ゝ露ひとくむめ　　紀刕和哥山日方氏　貞長

とひ梅ハ心つくしのわさかな　備前岡山宍戸氏 胤廊

花〳〵乃元祖成へし梅法師　東平尾小兵衛 幸以

色よりや小野の社僧梅かをし　河州松本住 延之

小野乃町か女子の筆枝ハ花乃兄　肥前國住 如自

鮮もせて弟子ハ痴ろされ乃兄　紀州熊野林氏 良通

紅梅ハまろしき顔そ抱し花

いふことも思ひて

咲てあふ真南ろすやむめの花　勢州桑名伊藤氏 良利

野と山の花乃あふさや勝かゝり　知興

穂梅や釈迦牟尼仏乃まつ冬　宜潜

穂ふす海作りやむめのを文事　尾州住 徳窓

つほむ方ハ古や錦穂むめの花　勢州南部氏 之也

文をこのむ木乃母ハ花重母ろふ　摂州大坂住 兼次

読かとみろハ蜀江をいふかな　永雪

紅梅乃ちろや仙家の庭のゆき　江州大津石田氏 元永

閑乃飛ハ鼻をもとなすや梅の花　播州本長寺 真隆

仙洞乃御庭を地下に見ぬも

見せさふ寄し時

水面乃月は待ひらくまとれむ哉　季吟

いと待し待わふ人のもとには
なやまされたる法まとをおもう
待ちとしふをいひなることのやれ
さけハ目乃ゆふるけふの梅の
むかしのかなるへし

あけてみよ鳥かあまよき宮花梅　惠佐

母かきのわとやつさ木乃花ほ咲　同

花僧か庵乃かねやさき梅さかし　同

咲と笑梅乃唇や言かはり　同

軒ふ咲く白ひけりや梅のはる
女をとこ御所ままふかし梅めくる人の
まよふらく　惠佐子十七 久松

咲ころや天氣よろしき論旨梅
藤原貞周山城大掾よるに
よろこひ乃命まま　貞室

去年乃時えて咲くや論旨梅　同

新年ふ蝋茶やふくむ梅乃花　同

拾穂菴季吟子茶栽り

さるかた竹乃陰より梅乃

花のみえけれバ

さるかた竹の陰は梅か香や不男侶　同

かくすきといふ農具を花かな

して莢かる梅を入らまし

人のもとへあて書左

いまよりハ禅わしろむめの花　同

和漢のさえありし人のもとまで

あさる梅ハ好文木乃名をも窓　同

正月廿五日小野氏貞武乃

亭にて書座

聖廟や弓持むめのまもり神　同

神垣乃梅ハおかしひや護身香　同

持梅乃枝や剣さきのあまつ星　同

聖廟七百五十年忌に

賢わしき梅ほく陰の万燈会　同

梅のこれきりハ

くいてみよ何乃香もなき梅の家　同

春氷　愚判

日比目まやかさ要すやうにうす氷　摂州大坂住 公貞

風乃手やおのひま比水なかり　梅盛

冬ハそろ春又そろそろとかる　摂州大坂六三郎兵衛 末元

とけかぬる水や春乃ひまつゝ　恵佐

餘寒　先師点

種奈さて炎ヶ谷おく

よかんしてのむやけしめの八川セり　江戸一石町氏 但秀

花もまふ埋火をすの餘寒かな　紀州粉川大伴氏 定義

愚判

年乃明て寒しや風比かん袋　口斗

冴るより夜よけぬつむつさりか　幸田氏平三郎 正舎

さえかへりかいて残おさめる水　梅盛

初午　愚判

雪乃降ゆく多に
去リ年乃雪や拝るは写紙　樋口長屋高看　妻

佛別　先師點

葉銭かゑやひとつ置やら双樹　播州姫路内山氏　一イ

二月十五日八雪の入ま
多く入ハ若て八せんと孫らん所　紀州粉川　守治

愚判

孫弟子も於ゝ川　涅槃乃頭ハ　来住山本氏　美只

弟子達や釈迦无二無戀の御別　德窓

愚癡な迄と別きや歎く孫らんさく　備前岡山松原氏　時明

菱乃在とさゝせん乃は孫らん所　泉州堺住畑氏　交利

色まろし御入めつさるかるの佛　紀州和歌山日高氏　貞長

春雪　先師點

女ら名れとことしハ物そ去は雪　丹州福知山千葉氏　直重

二月は雪とけて也つるや夜川　播州大坂住　之次

山はこしや常ひかろくろ去は雪　清水政光　母

雪や枝よ結ふ柳乃おもかけ　播州姫路住内氏　之冨

春も雪といふて杉やひえの山法師　西田三郎右衛門　元知

雪乃山とも見一口は春日か那　泉州堺之住　廣受

雪佛よふの道とくまみやのりは氷　紀州粉河大伴氏　定義

愚判

冨士山やたち結し垂雪乃種　府類屋彦兵衛　政信

消ぬ花は雪やさらとする白脚ハ　那智山日良住坊　如海

光陰乃矢狭間おしけさる雪まハ　勢州南部氏　兼次

山姥もしけ比雪は果

のこりくれて

春道や分ゆ道もあへぬ古年は雪　備州亀山松本氏　胤廊

雪汁を煮添ふ釣負ふ水たまり　武州江戸住　秀長

南てらく雪りや春乃草よくたり　和州郡山梶氏内　重澄

雨乃おし雪けて流せまりこ何　三郎兵衛　正成

水となる月ハとけし分し谷は雪　恵佐

ねて乃雪や盗人雨乃ふりおし　貞室

春まうりて此もあはせきとちき延

お年はさも待もとなけ人まかりて

折とけぬ雪や滝音乃底ころ　日

春雨　愚判

花乃父母とやけふ春雨はうるほ　青地氏 常可

春雨や四方は霧乃しめりけり　可頼

春雨や花に雨ふるこゝろなけ　安静

春雨や花待人乃こゝろしり　貞室

柳　先師詠

亀め池は柳乃糸れとらけ哉　摂州大坂井世氏 常人

物つよく柳やるらんせ地ん　摂州大坂木村氏 重頼

観音乃御手つかなまや翁柳　羽州秋田常福院 尊為

糸柳まことせいしかさ川か那　木村太郎右衛門 重須

青柳乃こゝろちやいろくうす緑　大坂山城大掾 貞周

神木や花いちとのゝやすさかな　摂州大坂井世氏 行正

聖代乃幾かうるみまさせ柳かな　江州大津住氏 三丸

柳から糸も孫まとゆひ三日乃月　季吟

柳からくれはふくに庵は香ものは　播州姫路武田氏 三吉

愚判

見よやこんにやくも月にふる柳　徳窓

隠家にや掛つくなくさむ茶柳　摂州大坂寺田氏 喬疾

ます掛もみえにハいそてこめやまうき　勢州桑名住 方成

泥水の濁やすまれたま柳　播州姫路植村氏 之富

蛇柳とりかへもとりかりつまれて糸　江州大津福田氏 光継

柳に札ど付くゆくどみて

札つきて送るハ遊行柳かな　播州姫路長濱氏 自笑

氣力なしやよろひきもなく女柳　丹州佐治氏 正重

根ゆきてや波のまにまに与一柳　参州赤坂内藤氏 頼香

臨文せし時稲田川めぐく

青柳の髪ハあけぼのや稲田川　児山三郎兵衛 隈光

枝されて風にやふらぬゆて柳　丹波福知山乾氏 政通

糸引や水のあやつり河柳　藤井吉右衛門 秀朝

風もとりく垂ゆ連掛る若柳　野沢甚太夫 玄義

藪陰の柳ハさけれかいもし糸　曽我氏 俊則

川岸を伐らくわとあらし柳見　徳窓

花瓶にハ立髪となる柳かれ　泉州堺硯氏 一武

名や坊主春や還俗柳かみ　越前福井山川氏　無系

昔乃中八くく海ところや柳かな　恵佐

柳髪ふそけつ家やきゆるせん　貞室

下風りりしま志りあり比柳かな　同

信乃山家ふ家持して住けり
人のもとめく

春柳ハ風御神乃さうきかな　同

松若緑　先師跡

はり松も春ハ立了御みどりかな　泉州堺之住　友重

木同　先師跡

月とるやむ人乃もとめて
末代目まて四方と見ん春の氣色　泉州堺成就寺　玉峡

椿　先師跡

花とゆやあちかて落つあかな椿　播州三木氏　知重

見ても見んありけやよく赤椿　明石松平八郎　三守

又作人乃気を折といふや玉椿　伊丹山村氏 盛定

皆寂り
つきとけハ木ま〻咲乃花見せ　泉州堺三宅氏 嘉雅

愚判

三くひり咲や眼裡乃ちり椿　徳窓

面や灰け或ふ椿乃なれ衣　同

庭の椿よなくさみて

嵩乃煙や漉紙伊勢つゝき　妙蓮本就院 知春

古筆　先師點

ひの椿きるや焼野乃古筆　薩州鹿児嶋 大山氏

名もとくうくたゞゆひそめし古筆　丹州福知山山田氏 利之

きふこ草よれらけ惜くや古乃筆　同

天筆と一對なるや古れかそ　丹州福知山乾氏 政通

那おそひよ出るく

くるゝとゝいきもぬ日れつくし　播州大坂之住 休甫

愚判

墨ふくむ筆か焼野乃つくし　丹波福知山横尾氏 吉治

志まよふや志ぐれたる夜のつくし　江州大津西村氏 吉勝

摘かくつむ人ハ欲けや深つくし　和州龍田ノ住 草栖

こしかたハくて禮かつくし　貞室

蕨　先師詠

あれまてかまへにつめかわらひかな　京ノ住 三秋

わらひまをもらハ豚乃内野小　長崎野沢氏 玄或

姫山乃蕨も志川かけ乃那　播州姫路坂田氏 交云

折人乃腰やおひきやうかゝさ蕨　播州姫路 清長

ちかい人か黒毛乃宮は下わらひ　泰円

愚判

山伏やくハ蕨をそやもまたそつる　尾州ノ住 之也

折る人はまつ伏さけをすゝわらひかれ　播州三木氏 勝政

盗人といてもかくまも出手ゝわらひかな　肥前国住 如自

芸当を便けよくれふさわらひ小　摂州大坂 恒貞

山姫乃耳播をやかさわらひ　山本善兵衛 善入

早蕨や深谷乃雪よかくらん手　貞室

とけしきや春待かめる花乃紐
摂州尼崎 永定

花ハ見るをまたまたさすや吉野山
方春

ひらく寺花吹けさそふ夜来風
播州池田佐伯氏 正次

凩そ咲出千万末代まれなり
播州姫路武田氏 三吉

春風ぞいやとて花乃香ふかし
播州姫路 内氏 定玄

花乃白よういつまで来ぬ人を迄
播州青野山 祐典

花乃白ハつかめそてれちや念ひを折て
泰 高橋氏 元信

八瀬の山ハ黒木目にまたて霞かな
播州姫路 内氏 定玄

あれ山や弟さいきてあの花のえん
播州池田佐伯氏 正次

花

花ぞかし法国会まうして
西市ゑ

よしや山麦ハあしくと花の母

是ハ細河幽斎法印玄旨云式
御作なり竹馬狂吟抄より

此之師跡

山乃以しらこわる行々毛見哉
長崎野沢氏 玄義

咲てより明られ寺井の花ゝ家
越後柏崎市川氏 一九

年中の静氣ハ雲乃花見られし
播州大坂住 貞因

無量山にて

人ことに無量山乃花見かな
數山七郎左衛門 文明

千本乃念佛ハ花見てしろゝ哉
播州大坂上村氏 重貞

見るさへゑみよ清水乃花車
清水光政 安

忘しいて花乃瀧すやのかり坂
播州姫路松原氏 文云

太上にて

いつも毛いけてをけりし朱の山
同

或寺にて

佛前や扇さへなく花乃ちらん
竹村八兵衛 正重

それは風鈴の梵さりしを

あけく花もちりけまんとなる風鈴
大坂ゝ住 如貞

一万るの時

花乃種を蒔や一万くせんさい
播州大坂佐茂氏 栄甫

毛袋ゝやわろて梅のよのゆめ
季吟

藪をさくれ髪ぬすへやたしかし
田村甚九郎 重晴

東山あそびによく

零落乃こゝにハ服栄乃たくひかな　蝠才

名園の花ハ木の下れ涼めれ　有馬氏意安 寿白

木さへちるゆへ花いくさやれ山　播州姫路 貞重

花王まだハよし花の都かな　播州姫路〇〇氏 三岩

たゞ眺つゝよし眺る花いくさ　伊勢五郎兵衛 成吉

むかしの春

散花を投つけてゆく嵐かな

花ハ黄門定家の御作と

中傍らん

愚判

咲ぬまやいとせ乃おもひ花乃波　京〇〇曲氏 正盛

さかりまや目寒ひてみつる嵐　三忠

去年みし花ま二輪んを接木かな　京平尾氏 永利

さいへまひ川咲ぬうくいやあをれ級　大坂浜谷氏十三才 章以

火をとりすれ花をみるりやとろくめ　長寛

つれむあれれわれやいさかけ木樒　播州姫路 重

にいかりとまりくそもん花の枝　紀州和哥山日方氏 貞長

ちるまちれ花見るも花乃さかり哉

摂州大坂武井氏 守知

袖をつる桜に残つめ乃花見ん哉

加州 正種

まちるといふくれにもゆく花見哉

摂州大坂甚太郎 貞正

ありさ神や取つて四方乃花見衆

春霄

十既てふ日も出てゆく花見かな

同

火をとりす花や薪焼たつせ寺

徳窓

花乃時ふ雛も並ぶや恋乃山

摂州大坂住 為宣

みよしのや花へ入すまや御身山

摂州大坂□□氏 保交

かめゐのいけつる花のうつろふ除

よそて俺まつりをやめて

志か海にいけてやあふ寺座の庵

滋利めさまるかあをむと

さしみるをみゆく

摂州大坂城吉□ 不存

志んあまいハ花のあとまつ滋利れ

紀州和歌山 浄近

無刀にくもまさる花乃あまた哉

東海氏 正頼

清水乃花にてうちやせん寺めん

京堀川本方氏 金清

笑乃中に刀ハ老れ末ちかに

泉州堺□寺□氏 一守

山乃腹かつて花やわらひかれ

曽我七郎兵衛 俊則

布袋あらん母まて花ハ笑ふか　京川三郎右衛門　長之

花しれかわや似ていぬ人の良　敦賀野沢氏　永吉

見る母をおもちり花のうつりてふ　川ふ八郎兵衛　一景

母ハ親党(?)ふも寸花ハ志そくか那　丹波亦(?)

生家師れとまそてふそとの
となとりて

花見る母をおもひんぬよなすまも　勢州桑名住　良利

ちるすかよ来ん拖てなく花の母　泉州堺[illegible]　[illegible]成

慈悲ハあるて終まハなるや花の母　敦賀野沢氏　永吉

母ハ父咲く句よやまれの香く　播州姫路　浅重

花の縁をむすふの神や母の文　薩州鹿児嶋　□山氏

母申(?)薦茶といふよそは

雪よ湯をかくのとしや花の母　青地氏　可頼

いそつくや嵐ふ諸るみのゆくさ　俊之

右上母く

富士ハまついそれかとゆよ花の雪　播州姫路　是誰

常陸帯と同まや筑波乃花の雲　勢州桑名住　□□

花をそめふ道のそるなういそくかな　勢州松坂□□氏　良信

荻とやさらにまふせん花いくさ　京七条荻木氏　宗輿

さきそより風よ花ちらいくさ哉　和州郡山都筑氏　直成

ちと物くや妻乃試之花の風　池野氏　重久

志らるゝハ風の心ちりかゝる乃かれ　摂州大坂大橋氏　一重

みかしし黄蘗や禅ふかる乃風　勢州松坂　三忠

柳にもとやらせまゐりし花れたせ　伊日長谷川　可升

花乃比ハお雲へ御座れ風の神　江戸住渡邊氏　照察

花や花れ芸よまもしりかせぬ神　播州姫路渡辺氏　是誰

三春乃やくひやうるれや花乃風　紀州和歌山野村氏　玉心

吹風に兎んかまさ花見乱かれ　摂州松田住　和俊

仙洞御垣の花のちりける時　河地又兵衛　正量

盖をせよちゝや乃山に花の風　京七条荻木氏　宗輿

花の香をとゑいちやうするや山おろし　六条上山氏　正光

風よ帳ハ盗人入り縄やこの花　徳窓

志ならなりの花盗人とくとまゝ山

くまゝ山ハ寺門多門乃花乃人　沙門　静山

醍醐よりく行樹院僧正發る

せよとのこまひくれた

花のゑんハ源氏にも孫と申也
中川氏
喜雲

華乃もと中よりともくむや源氏酒
尾州池田氏
ノ刃

花よりくむハつに茶哉かけりし酒
古作住
撫石

霞をもとくみ分るや花のあるかれ
文川三郎大夫
長之

ある寺にて酒給ニへて

花にくむハ上戸なるいや下戸ハ花生
濃州竹ケ鼻住
可政

花ハおことかへさやわすまてる此酒
勢州桑名住
良利

野も山も浮生ハ花やさけ乃種
宗旨

懐紙にもと折りしみるや田舎此花
中川氏
喜雲

花に明心のうちに持もなし
徳窓

世あらしへめとくやと山の花さかり
勢州桑名住
良利

むより花見ハますりて

食籠をもちて同しれ花見かな
正哲

ありてんと三味線哉乃花見かな
摂州大坂住
不存

あひしれる人大津に侍り
そのもとへまかりしに三井寺
よりまてうしとて見事なる
花をかめにさしてこせられ

名れと

三井乃花ハ大津うちての縁かな

進[illegible] 世恥

大原山まく

大晦や氣をはんせんれ花ころ

戸嶋治左衛門 良俊

かつらき山れ麓よ泊りて

花ふ一夜わうや葛城たかまくら

和州郡山池田氏 正式

芳にふみなよや人乃寐入花

敦賀野沢氏 永吉

往も来て蕾ハ葉しれ花なかな

東京乃時田舎まそて

敦賀大井氏 重次

花の書田舎ま入てミやこかな

紀州和哥山日方氏 貞長

都よ住りける時

辻ふり田舎乃花みる都かれ

三忠

書一季田舎も花乃ミやこかな

紀州和哥山濱野氏 浄近

書みちれ法しき花見ん乃かへさかな

但州生野長井氏 業秀

薫りぬて伽羅乃油かこれの露

戸嶋治右衛門 良俊

池水ハ花乃えつけのかゞみかれ

竹内兼庵 正成

花笠乃あ添ま付てや花乃紐

紀州池野氏 浄近

未らしハ花乃かすミ乃つゝみもかな

京六条上山氏 政時

花見にまかりしにかへりて

云ハ分さかとさくらかな

見て乃文翁語ること兼好も徒

阿刕内田氏 正信

鶯やこれもねふてふて夢ふくろ

肴類屋孫兵衛 政信

立寄て花乃輪廻ハ小鳥かな

泉刕河合氏 宗勝

花ちるや寸童部ハ風乃子ともかれ

肥前国之住 如自

霊山にて

花をよみ比山嵐やましつゝ

季吟

風よ囲とおや短命花けり

時明

古ゝ梅かりしか世乃葉と花と風

勢刕松坂林井氏 昌友

西むせ乃ちるすや花乃あるゝは孫隠

勢刕桑名大橋氏 林義

月次ニ誹諧をとりよりし

侍る人のもとにて

人おもくよるや月さえ花乃波

摂刕大坂梶氏 保友

よしきりのや春乃部よとる雪月花

加友

落ちるや瀬あふ人もなきこ花の淵

徳窓

花乃影残たけるあや親孝す

恵佐

吹ちるくちるすや花乃あらし人き

日

ませがきハ是や竹たく花いくさ　同

妙心寺のされ乃あとに尼公
あまりて酒などうりけるをみて

花を見るまいるやあまも妙心寺　安静

人まつぬ花も都乃よし香哉　同

山松乃ひきゝや花乃雲おろし　貞室

千る花二つ有り

花の香や折てみる袖よとまり時　同

守れはちるや花ちる時の扨れめひ　同

一 遠山乃花よりさきやかけて
まうりしふかきとの幕乃
内ふ志りほ人なる不しき路
酒のみてあるよきさく小亭
いろしうらる床おとり
しのひて流の入す
きちれ小歎こゑつれ花見ん乃香小
たかしけれ火とりふ香を添て
まるりけるその盃よかきつて

同

ちいのかりひとり花ころやまかな　月

越中高岡正和なと花見に行て

散花やさそふて越乃雪またれ　月

ちかし人まつ京の時

さかせんと枝や石動花乃かすみ　日

花待侍る法人のもとにて

霞をはかり栽ぬよふをみて

米吾道言とはふ人参るせまと

みりしなかり

さかぬ先さかん乃頃を花見かな　月

金龍寺にて

花ハ白く松松乃みとりやえんまし　日

小しかり乃花見よりて

口三のまきよしおれ花ゆかせ風急　日

丞馬氏の何かし千句もよ

みしのひけり時第三

佐保姫乃そで川や花の窓の内　日

建仁寺方丈の庭の花若

本まで帰りしゆくかな
すく立のひらく花咲けれ
なきよめの岡山乃御来迎
いそく

花乃本もせいたくなる御寺ハ 同
いさみ勇まし帰る折り物うち
まゐりめりふ人のもとより
まかりて門乃外よ立そて
一せうそこ遣ける茶屋乃花見

一本たゆりえけるとハ 同
ちらぬ日ハ踏合ゆらせ花乃雪
物淋の花見にまかりし時
東海氏正頼のぬしを外
おちもろ人帰りて御堂乃
舞臺よ押立ち世月わさ
よもすゆら酒くみへて
おもしろくな花見ハあらし物淋山 同
よしの山までちらしまき花

盛ニ心とられて何も云ハせそ　同

吉野やう川むよしゝめくをなれ雪
よしのゝ花ニ日残かさして　同

花の雪に逗留をする山路かな　同

三芳野や右往左往乃花見られ
芳野乃花よあこかれ行

しら山口乃櫻ハ散すさそ
風の手さへうしろすひかれ

一 豊源寶落の雲井布川

一 なとの花ハまた盛成しを
うち詠めて青根か嶺のもち
のゆき見そゝるの谷の花乃
木すゑハよしのゝ志つに付る
心ちすゝめぬよ

雲をわれてありくる根の花見ハ　同
花ニ風やよしのうしに蟹見ゑ　同

今乃内裏遷らせたまふへき
おほせことを永井氏乃何某

ちゝかうちうきこゑの守宮を
取りて恵ませらるゝおりふし
人の為にまゐりしを何にも
此御すりのおとゆへあまりき
發句せよといはれて當座に
よめり

大内や御造栄竜のたれの音

同

夢中に高野山まで

月もぬけ西横のたなに高野笠

一 櫻

先師跡

天地とひらきしやそめしいせざくら

丹波福知山卓氏
直政

花は未出寶鉄なし伊勢さくら

京五条松本氏
永定

似たる墨染まで

姥しらぬとしさまけ染よ桑櫻

大佛清水政光
母

落日に花かつ彼岸さくらかな

摂州大坂佛師
寄清

櫻田は満り来やよしのの川

摂州大坂木村氏
重須

きりかへ八乃くるしきあし花の風

摂州大坂井四匹氏
基之

まじかくるや雨の大桜いぬ桜　泉州堺田中氏　勝明

枝ハすく孫は花大桜乃さかりかれ　京甚兵衛　重吉

大桜やいくつかれとも油おやき　泰因

春雨や烏帽子さくら名付親　播州姫路吉田氏　正舎

たたへ地しほくゑかりしさくら木　伯州会見郡荒尾氏　重之

残りそて虎の尾花はゐる多筆　摂州三田住　重香

花筏ハ行すに虎の尾乃さくらゑ　貞因

くら海川乃氷代もまやうけ桜　貞因弟　貞富

蝶鳥や花すに辞いはうけさるらう　摂川住田氏　弁賢

花の名も何まる代山や姥さくら　武田次郎三郎　定信

庵香よきさいせんしらやすくら姥桜　京中嶋四郎兵衛　宜還

老をかむそくきまも咲や姥さくら　松宮右兵衛　寸枝

忘れむ花乃教ハ忘るや姥さくら　泉州堺住恵美氏　正宜

雲や霞あてうきたる家桜　京五条枝木氏　永定

亭のや孫をふきけるへを

みそく

たくさや孫よのかりてみるや家桜　播州大塩住　満永

花ちるハ好んまもりか家桜　日

西ハ花さく迄ハ山の八重さくら　　同

並木なるや是も並木乃家桜　　丹刕福知山横濱　吉治

鳥ハ餌とやさかしすかる家桜　　摂刕大坂住　本吉

小倉山に咲ハ宝家さくら哉　　播刕姫路武兵氏　三吉

錦鏡もすまん塩竈乃花乃浪　　清水氏　言聴

塩竈乃しらめる花やふりまさり　　東野白市郎　親善

京は田舎あれ塩りまれ花乃人つ文　　西田三郎兵衛　元知

種々薩埵の花は揃ふや普賢象　　同

いけ花くも普賢象乃みや花瓶　　寂光寺　泰円

立すかた妬花や楊貴妃ふけんさう　　味正ノ五郎　正佐

小山石不動の雲萩は宝哉

桜ありて迷を

花も不同志やりや文珠普賢象　　輻才

坪の内おりふしや普賢象牙蓋　　摂刕大坂井関氏　政交

散花をふみつゝ普賢さうつまる　　播刕姫路武兵氏　三吉

まくさかしさんやいさん普賢象　　摂刕住丹山村氏　盛定

八重桜ひらく雲井や後花園　　田村氏甚五郎　重晴

折りとめや老乃徳み八重さくら　　寂光寺　泰円

汐ぬるをまつやくひらせの生桜

井関六右衛門
常久

山寺の庭にやちそうさくら花

越後柏崎内田氏
武英

打句當冠桜乃花
盛ふくらくふ花見の春もふ

江戸住竹形氏
但秀

桜

愚判

六川ふ成侍るやうし糸
桜乃もとふめく
糸桜柳ふ似し家来忠かな

生敬

・植侍りける糸はくらの年
さりとして花まかりなれハ

安房吉本氏
定良

さけへの声もいくもあり糸さくら

正月
正武

吹かせもゆくての世よかれ糸桜

薮田氏某
俊通

糸桜胡蝶乃為のまひてかな

ちよの庭に植けるをみる
苔根もうへめる彼岸さくらかな

春霄

大桜乃本陰まて
花もふとう声ふゆうぬ桜

三忠

熊谷やてしら桜見ゆる花乃かけ　但馬中嶋氏　安永

むさし野てのめ熊谷乃名見え桜　摂州大坂堀氏　保交

花乃なしや一重はしもれも家衣　東洞院平山氏　心月

さくらあや孫かう人をよし野山　江戸住秋元氏　重久

咲て京たふとなるや山さくら　勢州桑名孫兵衛　良利

桜田にあはせをそてたる並木かな　尾州池田氏　ノ多

くもかゝり峠のあふる生駒
山乃さくら見よりて

はくらかゝり峠こえてや伊駒山　河州清水氏　春雪

名も薫り鹿おるやなら八重桜　藤田九兵衛　正久

さくらくはくらちめかえ桜　尾州　有也

下御所国代そとうまうくさくら　勢州桑名住　良利

吉野やりえる川や子花乃いろ　江戸会津石崎氏　可隆

あさひ見んおしひさくるれ花盛　濃州大田氏　可繁

吉野乃か川咲山や妻かゝり　丈川三郎兵衛　長之

楊貴妃乃花をやとひる蝶の衆　徳窓

やうきひまし之れ宿る伊勢桜　四条甲斐兵衛　正伯

井乃上の盛乃たゝるやとうりさ川　甲斐与兵郎　重章

花ちるやされかゝはくる町葉もり　武州江戸後藤氏　照森

太山桜見んゝ友さそれやかけ法師　摂州大坂与三兵衛　淂和

ちやさきいそうしめ此老ヶ姥ざくら　賀州金沢住　周元

子地ともいけも忘れぬうえ桜　恵佐子十才　久松

姥ゟ小家ゟよをゆそて
うんはつまと氣も若やくや姥桜　摂州池田佐伯氏　女八才

家や花乃色ふ去ゝおゝ姥桜　春宵

都ぬさたむ云乃庭此桜をみて
老て人よ用ひらるゝや姥さくら　江州大津若林氏　吉信

我いくにさけりし花乃姥さくら　備州松村之助　幸坊

にこ尾云えとぬる若やうえさくら　丹波里井住　退歩

木さえ家をあまハ何ゝ世を姥桜　尾州住沖田氏　ノ力

姥桜見ん家ゟ葉を黄家松乃風　京六条山中氏　徳窓

まふ蝶ハ露乃孫ゟやうをざくら　武州江戸昌雲軒　道可

我とるゝ花乃盛やすゝ姥ざくら　播州三木加賀氏　春清

孫すゝみて振やをてなん姥ざくら　秀長

ともせうん花乃ひ祖父姥さくら　播州姫路坂氏　吏云

春ハ花見んまいらゝやい撥ざくら　睦女

三輪に詣ける時伊勢か

古哥をおもひおく

三輪山そいつゝ待みん伊勢さくら

姫路坂本氏 宗興

恋しくハとふらひてもまゝせいせ桜

播州大坂ノ住 友直

けふとさけハ眺りて来るそいせ桜

京東洞院山本氏 善入

花乃色ハ赤染をなと伊勢さくら

播州大坂梶山氏 保友

友垣あまた花見に行けるに

いとまなくて

ぬけてなりともまゐりてみたや伊勢桜

河原町木屋文意 冨重

花ハみよ高階氏もいせさくら

武州江戸渡邊氏 照擧

八重桜まうしき法清水り

条けりまか川咲たる一本哉

もとに人おほかりけれハ

人たちハ女哉鬼か伊勢さくら

京文字屋氏 重隆

辻氏 藤春

花乃名をたつまうつゝやいせ桜

京□□氏 宗安

花乃波もふかや川端いせさくら

主あるや花を飛哉木いせ桜

播州大坂中村氏 友雪

条文の時

枝園よさくや花西いせさくら
見山三郎兵衛 限光

花かて志りしぬちりそ伊勢桜
丹波佐治ノ住

折しそても折しみそりちるいせ桜
紀州和哥山宮氏 貞長

花乃縁もされてちるなそりいせ桜
泉州堺ノ住 貞成

小さくらや折そいれてちるさよ嵐
德窓

小桜乃花は露りや折か川手
江州吉田勘兵衛 可成

花もおやにあふるや西ふさくる川
摂州伊丹山村氏 盛定

酒よりも志む塩竈乃花見水
煙りまとかそさくらを生て
摂州大坂ノ住 龍和

あつまめく

志かか海ふらけつてまりかけて桜
青地市郎兵衛 可頼

涌まけてちるや塩か海は花は波
阿州内田傳兵衛 正信

須乃海乃蕊いう縁りる花乃波
紀州那賀山某氏 圓恵

塩竈乃花よ離れ志ま川か那
井尻清五郎 恵幸

賣券る柳深て屋敷家さくら
秋田小兵衛 信貴

さく時分さんさしつせよ家さくら
摂州大坂ノ住 本也

本乃道はさくらんハ南よ家さくら
泉州堺寺本氏 一守

咲ちしく花ハ去やの邸さくら
紀伊和哥山日方氏 貞長

家さくらたてまつるや雲脊木
摂州大坂井口氏 安静

天水をうけてや開く家さくら
紀州和歌山住 行正

植つりて幾代もさける家さくら
江州今津中村氏 景豪

代々乃仮名を継や家さくら
江州今津中井氏 長次

末乃なき月やめぐみの家の桜
越州江寺谷氏 隆展

咲もまもみるやちんくハ乃家桜
徳窓

今ハ月乃嵐すめりし家さくら
日

旅立はゆふ庭乃さくら哉

さくらあつる絃みく

安宇あけな風さそふとも家桜
春霄

花安を風ハ寄故ゟ家さくら
徳窓

ちるまはや安もしたまふ家さくら
川小平左衛門 吉次

とうつさ絃かくるや嵐家さくら
摂州大坂住 好道

あくしまや五条ゆかりの家桜
勢州松坂林井氏 昌友

あくる乃八重さくらをかゝみ
かとりまてかん傍て

京てかんいつ重ほきらん八重桜
和州郡山今泉氏 吉保

花ハ人乃氣をさそすゝめや普賢象
播州姫路神谷氏 重安

播州書写山にて

弥陀ハ花よろこびやかしこき普賢象　播州姫路松内氏 定云

佐保姫乃ちりわざん乃普賢象　勢州桑名水谷氏 長昌

出きあふまうけそ花の普賢象　可全

蟻ますさや花の末代毒普賢象　下村利安東 康吉

誰もしるまよ代さきみる普賢象　京六条山中氏 道可

五くさく花ハ弥勒かふけんさう　五条大湊氏 元春

通盤のいくさる花も杖そさくら　勢州桑名渋谷氏 良利

くすそても杖よ弥ふや杖そさくら　紀州那知山玄授 道諄

彼岸さくらまさて七日や花盛　恵佐

河邑乃家まいせさくら乃
咲るをとみく

伊勢さくら川すや花乃もつ河　同
雨よ花乃ちるをとみく

さくら田代水損おもしそ家乃雨　同

花垣ハわくらたつまろ桑さくら　貞室

風乃日ふあわりや櫻乃桑ござり遊　同

桑さくらえたすハ風乃てつかれ　同

ちるなちらは我か賛も糸桜　同

さやくとくやさり入川さ子花の綱　同

山おまし侍る法いませ山
より使まつさてこゝや久ひ
地こ在待る發るを今これは
老者のちからくちなりしま
まて待れ

清まるちらてもんかやいませ乃山桜　一日

悲母妙蓮禅尼七墓所乃
さくらいさけりと極ゆかとて

佛性はありやなしやれいぬさくら　一日

ひさつきもめせひさくら花の庭　同

毒蛇氏可邦て陳家の花を
みく

花いや孫乃居越まうろや家桜　同

落遥る花乃さくらや雲ちされ　同

桜鯛　付桜貝　先師点

奥乃棚はよし野は帝かさくら鯛　播州姫路[illegible]氏 正舎

花の波ぬらしか黄そよき桜鯛　薩州鹿児嶋武林氏 守泉

浪乃花やよせつきさません桜鯛　摂州大坂之住 如貞

あるふ〻年よ稀すり桜たい　播州姫路武民 二声

日残川わりと日残ゑくや桜かい　摂州大坂 當心

桜鯛 付 桜貝 桜海苔　愚判

切くらくよしや火鉢乃さくら鯛　一恵佐

さくら鯛出すよ座敷や弁乃会　小川平七 元安

えひすが歌乃書は部るれや桜鯛　賀州金沢篠原 明忠

三月はうしおも花やさくらたい　備前岡本助兵衛 清讃

魚と氷と中よすさや西ふ桜鯛　播州姫路 浅重

思ひと云浦色あてさくら

鯛よるとみく

門網はいそりとによるやさくら鯛　周州多田伝八郎 正安

網乃目や花乃ちらるさくら鯛　河州内田源兵衛 正信

塩竈よいつか来ぬむさくら鯛　加友

さくら鯛おろすハ花はかくされ

かれ　武州江戸牟野氏 古掌

佐保姫やおかひくはへさくら貝　江州大津草津氏　重安

白波乃花れつゝみさくらかい　播州姫路平井氏　元利

かけ波ふ日ころひろふやさくら貝　貞室

讃州志渡にまかりて

さくら貝れ玉もとるらん彩珠洛　備州吉田七郎兵衛　信元

あまれかゝるや須广の花まれ櫻苔　勢州桑名茨木氏　方成

岩ま花さくとやいはん櫻のり　江戸飯田六兵衛　貞頼

苗代　付耕田

愚判

苗代川は游やかゝるれうろ乃たね　徳窓

あゝしろを焼こあはするひとつわか　備州吉田七郎大夫父　了貞

人形ハなはしろまもりてたてか那　五条大沢氏　元春

たゝやまハ象とや見んまし特うし　勢州桑名住　良利

襷かけて田すきさくらや苗れすけ　同

りひくまかへすも民乃おり田かな　安静

角組芦

愚判

流のくむや心乃鬼れあし茗　和州郡山　勝重

桃 付上巳 蓬餅　先師點

盃につきあやもゝの華
越後柏崎蓮蔵坊 一顕

ゆくもゝといふかとくみや桃の酒
京住平尾小兵衛 幸以

うつかうまもつまん蓬乃誰か
播州飾磨津 意順

蓬餅や永き日よしと忘れ草
泉州堺木野氏 頼廣

食ふおやおされ母子のよも餅
寄白

糠なくて花もこれらのそこひける
摂州三田住 重香

愚判

酔ひとゝふ人や花より桃乃さけ
江戸昌雲軒 春清

つくるやく川より菱乃蓬餅
内田氏 平吾

桃柳蓬と三ケの苔借かな
京山本吾兵衛 善入

杜册なくて花乃王母や園乃桃
京河原町与兵衛 正伯

うへそろうもの花まつり哉
摸根いろみひくさかわるや桃の花
惠佐

ひゐなことする姫桃乃苔借るな
二条烏丸長兵衛 宗方

西王胡藤家乃桃花をみて
姫桃やちよとあれたもよひの酉
貞室

同し根ゟ麹乃花と桃乃酒　同

梅ハ酛ニ成けり桃ハ桃乃さけ　同

三日の節會ニ貞徳老人の
もとへまゐりしに人々の
發句やなるとゑりせしかと
須さびることはりて元日ニ
しといひふるしき
あしかりけれハ歯座まつる
まつりける

口ふむいふくむや三日の桃の作　同

春めくや文字も春く筆のち、　同

鶏合　愚判

獻こういとりあはするやときの糸　和州郡山 定幸

雲雀　先師跡

ひのこならてあかる焼野の雲雀小　中井氏大夫 朝哉

愚判

ひばりしも雲にかけぬる雲雀かれ
京三条六角若菜 梅盛

春鷹　　愚判

とぶまでは安すへりや鷹つなぎ
江戸ノ住昌賢軒 春清

巣鷹とりて又まへいかゝあまの
但馬生野住寺田氏 豊重

春鳥　付巣　愚判

雀ゆへ子持となるや形乃つま
伯州倉吉住若林氏 直久

鈴乃ゑいを潮まうむ雀かな
江州草津ノ住 重道

山頭ま鳥や巣をとふ釈迦乃嶽
五条副田にたかう 光舟

すかくるや抱まもの乃此鳥
摂州尼崎之住 之次

橋末にすくうそれ鳥や古琵琴
摂州湯山ノ住 三章

燕

こたからをへるつくつくへ燕乃子
戸嶋治左衛門 良俊

金山乃鳥形なるをみく

住そくくろかなるや子安れ玉くしげ
貞室

帰雁

出入師點

花見ぬやさゝすしとふとゆるかり
播州姫路国府寺 政次

たちかへる帰かりや小雨雲のうへ
播州餝磨津右八氏 友定

かりまくらし越路へ何とかへんなん
辻氏 忠勝

愚判

暁乃帰雁やさゝとみられ鳥
濃州竹ケ鼻 吉久

忍ふ夜ハ志とろ帰りて去此雁
紀州和哥山日方氏 貞長

花やをゝみすまよ恥てや帰るかり
京大文字松本氏 氏長

かつらき海ハ実かんてうみ羽つくろひ
貞周

小むさきも忌まや帰るかりまくら
京四条田中与兵衛 正伯

忘れぬやもとこさる方にかへる雁
但馬生野長野氏 業秀

三月ハ桃尾まてやかへるかり
田中氏 可雪

愚判

蛙乃あとを来て天にまよふて
苗代にも住やくらくかへるかり
貞室

そめいろもかハきかんの山路川
同

雉子

子日へすや焼野乃さしれたる松木
丹州小浜氏 定次

やゝぬ耻やそも堅固なる雉子の声
備前三本松大夫 忠之

歎のけんをかりて祐るを雉子の声
徳容

蝶 先師點

花乃香を鼻てかいてとまる胡蝶
摂州大坂井関氏 喜之

うやまふも巻末乃かけれ胡蝶かな
東武杉子氏 元信

美草氏葉もてなすへき胡蝶りな
摂州大坂住 友直

愚判

花ふ酒あれ切んかゝ乃舞やまふ胡蝶
京五条松本氏 永宣

舞さう胡蝶や乙女花乃くも
油小路荻井氏 秀朝

花さけく頭は胡蝶乃見舞かな
但州生野住中嶋氏 安永

火ともに須花よ胡蝶や舞焼鏡
方角

花よ声ありてやそや手蝶の舞
京大宮鈴木氏 氏長

かさりかよかふ葉乃花よ舞胡蝶
尾州名古屋住 益勝

振りよやひもとく花よあそる胡蝶
河内住清水氏 春霄

舞蝶乃曲さもや花の波かへし
摂州大坂ノ住 好乃

花の陰乃胡蝶乃舞ハかつらかな
摂州大坂ノ住 常知

春夜乃胡蝶やぬれつ床乃まくら　曽我氏　俊則

君に似ふ富士野ハ蝶や駿河舞　薩州鹿児嶋　大山氏

うつの山夢にも蝶やまろう舞　徳窓

めうてふや花乃ころやし小居曲舞　東堤左太夫衛門　延政

尉と乃うまつろうに蝶乃まくら　敦賀野沢氏　永吉

有馬氏乃何某興行する

第二ふ

身かろけふまゝ羽つらひや蝶ひえん　季吟

盛久が夢みて後よ蝶乃まくら　小松原梅安子　時明

てふてふや眠さまして絲前花の露　摂州大坂住　蒲成

虫とふれて花ハ口すふ胡蝶かな　伊賀上野松本氏　未友

木の間をも花をも吸ハ胡蝶哉　尾州山上　次政

蝶々乃うさ寝や花乃浪まくら　紀州和歌山日置　貞長

うれしさを露くさ色してやめる胡蝶　京太秦松本氏　氏長

蝶鳥乃舞の衣裳やをれとるも　恵佐

野色もなく家居せし人の

もとまで

蝶ハ舞獲ハなゝる吉野かな　貞室

筆にとふ錬や竹枝乃衆乃曲　同

錬なるや震乃うちハすのれまひ　同

蛙

先師點

浪まくら蛙乃音ハ夏想か那
丹州福知山　　氏
久頼

池よなき辰晴や蛙乃哥乃會
摂州大坂　　主節
俊真

なけなきさ哥ハよのますやひくらう
摂州大坂木村氏
重頒

鳴なくハ蛙もあやらひ乃うた
播州姫路　善
正舎

音をとよみん哥まよ海て蛙かな
丹州福知山関氏
萬疎

愚判

洸滅芥川まて

天ゆきあらハ哥やよむつき芥蛙
摂州大坂安福氏
秀之

鰍といふ文字さくやうたの韵
尾州犬山　　
卜需

六田河まて

哥乃六義たすむ川田乃かはつ
播州姫路　　氏
之冨

歌て海深世ハおひおか乃かはつ
摂州大坂　　
政武

哥よむハ田乃くろぬしかはつ
濃州竹ケ鼻太田氏
可政

一なんの田と井乃うちよなく蛙
和州郡山池田氏
正式

呑れてハ蚫乃胃ならちに蛙かな
河内住清水氏
春霄

蓮池乃かはつの音ハまんゝかかな
尾州名古屋山農氏
是安

水口を歌口となすかはつかな
播州餝磨津脇氏
清長

水ゐるや常にかはつのうちたかひ
奥田治兵衛
政之

かけろふや下乃蛙や木曽かせん
尾州住清水氏
独卜

音ハ披講軍ハひらぬかはつ哉
播州姫路渡邊氏
正貞

東山是谷狸か池とふるま
かはつのおもくあらをみて

軍するよろひか池乃かはつかな
児山三郎兵衛
限光

軍法や佛法となくあまかはつ
尾州熱田加藤氏
一甫

くちなはや珠乃守護神あま蛙
桜井甚太郎
一重

禅尼なや松の下なるあまかはつ
丹波黒井ノ住
退安

蛇にあふやうきをみるな風あま蛙
泉州堺硯屋長兵衛
一武

庭の雲にあま蛙の居るをみて

松陰にふりやかくれあまかはつ
勢州桑名之住
方成

水乃標に川や塩庵くはまかはつ

二条高丸乃やとりまてもはれ

あまゝのにおひ出く
尾州名護屋住長
一和

神歌もよめ廿騎乃井のかはづ　恵佐

近江路を通りし時本文と
よ京まて
軍する大手の城へかゝりなくかはづ　同
河邊は別葉あるかのまよ
かしられは
あよやかはの祭りゆくさ神　貞室
神前のかはもうらとへ河やしろ　同

春駒　先師点

ゆうひ出るたけに地のけそ春駒
かゝの紙よふり捨て　越後柏崎住　松都

春駒乃ゆくやかゞ野乃お待基　季吟

愚判

あるよハけふ春駒乃よすけかは　戸嶋浩　良俊

茶摘　先師点

鶯の爪もと啄目残えて茶摘所　一長崎住野沢氏 玄義

愚判

まよ清くてみより紫茶や鶯の爪　但州生野住酒氏 安永

菫　先師點

松かけに咲ハ硯乃すゝれかな　摂州大坂住 如貞

愚判

釣人おかりめやか手か稼ぬ清く菫　尾州住 之也

・猫念よ徒つ人ミ鬼の為ふ

・山城ハ宇治よつかりて上られけり

そめ便よつきてふつかり行り

ゆるくしか原や西湖乃つかすゝれ　摂州平野末檜氏 一重

華よ咲ハ条をいてや蓋すゝれ　江戸大光院 秀長

あやらいて月なる碁盤乃すゝ傑よ　辻村 愚玉

春草　先師點

地神よりもえゆるかうやふきぬたり　中若長太郎 久恵

地より出る多寳もかくやふきぬたり　泰嶋

山もとを川行て三橋乃枝葉か　紀州廣瀬文郎　時秀

林ははすくてゝるりつゝかんらさ　泉州堺住　定宜

かたちゝて摘てとゝるや汐かん草　播州姫路住坂内氏　丈云

たんほゝやうゝそてさまくなさつかん　摂州大坂井筒氏 好　栄春

古や今も丹波は抑ふところ　京柏屋庄左衛門　真交

浪の手は花刀といそゝやつてうの種　摂州上牧宮西松氏　元寄

愚判

野桜ひよ雪まの花をきつと

待うとて

それと云りつめつゝや忘墓よあつさなき　摂州茨木大橋氏　林義

花若まとかゝるやとりよあつゝりさ　紀州和歌山日方氏　貞長

よあかゝさ此抑伽よさ川やなうこ草よ　丹波佐治住　正重

此わくま昨日やとれにつかん草よ　周播住多田氏　正安

おちかる此野色此おさゝや傾城鬼　江州大津伊藤氏　三丸

龍つむ子此花や鬼ふうるなりし　摂州三田住　重香

金銭花を数えて参るせさ

そりしなふ

金銭花ちるや左此まゝみゆけ銭　阿州徳島有田氏　正吉

人の庭は金銭花とみへく

百あまりさけやめでも金銭花
江州大津秋田氏　蒲法

いろよりは根山人のゑやけの那
摂州大坂ノ住　友以

けまん草銭たまりて

けまん草はなかかや蓮臺野
稲田甚兵衛　信顕

やんとする御方にて

三家衣乃杉庭はさくや白らやけ
[illegible]　直能

野梅のまいさまうれしき

・むすふほとのつとにふ嘉例

・いとよくてましてたされけると

何そあるとおもしはいさやその

屋も見いそしといひて

小殿原とも着むつゆきの極り哉
但州生野[illegible]氏　業秀

春月　　先師悲

花乃湊にめぐりて出する月の雲
京四条[illegible]　正久

愚判

春の比女ちちかつまる沢广

浦見いつりて

すゝてらんや詠めあつさい朧月

和州郡山矢野氏 重貞

月の影ふあゝ笠さす所かすみ

恵佐

躑躅

先師點

禅家まく

そも山花なんそ萼て咲けし

丹州福知山立自 一勝

善悪ハ花に染まもよしや岩つゝし

周防山口岡田氏 幸茂

かつ毎も咲けてくるや梯つゝし

越後柏崎導蔵坊 一顕

あれ見よと指やさし咲かゝるつゝし

伯州倉吉住舞鹿 直久

愚判

おしらてみれは岩君れつゝしかな

播州上牧ノ住 文索

不動坂乃つゝちとみく

不動坂ま火焔や出す岩つゝし

芸ノ藤原照羽氏 正明

忘られつゝしの香や羊の乳

貞室

藤

先師點

まつね棚も海かりて見るし藤の香

泉州堺阿部氏 定宜

咲かゝりあまれたらや稲や荻のたか
柏井五郎 永貞

相松植につきそひまとふお荻乃
丹州福知山里寺氏 久頼

荻原て浅ふハ松乃ふかりかな
丹州福知山ノ住 道味

遅く咲ける荻をみて

越前ミふるゝ犹くいくまやさわり荻
播州姫路三木氏 知重

愚判

荻乃房寄さハ春のころかな
大坂住十兵衛事 治矩

荻つれの花よかやく日乃出られ
尾州名護屋住 ノ力

荻ハ本に花ふかく海や人ころ
徳窓

昔ゟけふやかゝる松えのふちの花
重利

重荻のまゆミにかゝる荻乃つゆ
播州明石稲津氏的 重安

荻の色や散ゆるあとハ浅ミのまゝ
但州生野三宅氏 豊重

本首度の花かりしなれや荻とりく
播州姫路三木氏 元利

咲ふちぬ皆見さふらへ三笠山
摂州大坂ノ住 好之

荻の森まて始ちをみゆく

誰もさそ三木くめ荻の森乃花
摂州服部村斎藤 頼重

波なゝはされれやさうき荻乃棚
江州草津住 重道

なてふさく荻ふ家ハ戸棚かな
山田為之 正盛

光堂乃藤を人のおりてゆくに

戸をたてゝ嵯峨せぬ藤乃棚もか那　児山三郎兵衛 限光

かめに藤をいけゝるをみて

花瓶乃耳にやすらふやさがり藤　貞典

見あくれハあをみありてやさがり藤　京大文字屋氏 氏長

柳乃木陰に藤乃咲けるを
みて

ゆく藤や柳乃髪のかつら帯　恵佐

・やんごとなき御かたにて

・御庭乃藤をみて

家のきハ縁棚ゟかゝる藤かつら　貞室

八藤を御家乃紋によせさせ
たまへるこれ門下を祝し
其ことを仰りし此藤乃
盛る戸せと室の守しぬふ

やハ藤は御まんかゝる盛かれ　同

藤はさかりやさてくむ人の肴棚　同

款冬　先師点

一やまぶきの衣ハ黄金の肌着かな　季吟

山吹ハとくより作りの立枝かな　摂州大坂ノ住 之次

愚判

山吹や人乃目よりもこぼれ菜　肥前石倉氏 一入

金乃間ゟ款冬をかこふ花乃垣　摂州大坂ノ住 行直

花軍せハやまぶきや先がけ武者　国枝也左衛門 忠省

別葉ニ咲係し山吹を
人のこひけるその使よ云ける

やまぶきハ主しかる乃使かれ　貞室

やまぶきや先んぶ香れ玉かづら　同

海棠　愚判

かいたう乃つやめる花ハ丸露かな　作州生野寺田氏 豊重

梨花　先師点

ころあし此接木ハ花乃吉子かな　武田次郎三郎 定信

愚判

風乃手や指くゝあらし乃花の枝　敦賀住野沢氏　永言

杏子　愚判

かゝおりとかゝるもし手杉花の袖　京堀川横田氏　道重

木蓮花　先師評

志庵ハ葉せん花ハ先目れんけ哉　摂州大坂ノ住　貞因

愚判

おいそぬ花やりくゝめくまんけ　安静

紫衣をとめずそる者ハ花は目蓮花　摂州川口安林　正利

風よ花ちるやそ孫たいりくまんけ　播州姫路府水氏　風子

春郭公　先師評

春鳴ハ夏も志るんなり郭公　正章子十才　元次

はかしハ枝よかけさいろかくまん　貞因

りそやちとまきやかゝきまれ春　摂州大坂ノ住　安清

愚判

鴈は来ぬ梅と告よかくさす
紀刕和哥山畠中氏　貞長

しせんよまたにゐるや古巣乃郭公
貞室

巣ふとまるや鳶うらひす郭公
丹波福知山乾氏　政三

名乗あへ来つかくさす帰鴈
貞室

永白　先師評

まん丸な白や糸桜の風そ有り
泉州堺又右衛門　頼廣

やり水よううつる花日ハうすへ哉
摂氏　利宣

糸ざ白代物乃ゟきさハ花の林
小田市屋　胤倭

愚判

白丸ハのとけさ花れ志さしかな
摂州大坂桃山氏　保友

風やまゝ長日ハおしもちよ花れ空
春宵

尾をつくやちゝたる花れ日乃嵐
德窓

鶺鴒乃足くよりうちしの日のかすみ
貞室

三月尽　愚判

深生の梅里よ山ふくして

折霞こ山ハかくれん藁花かな
宇治住堀氏　正治

萬花といふことを

ちりかゝる花ハ木の根やかくれ里

加州那山松下住
資則

酒宴の席にて

飲くせふかハつれ塵乃塵かすミ

花や根にさらハしり乃塵かくれ

貞室

円

雑春

名所題

尼崎といふまて正月かな

ひろきをみて

新の妻はかまり抱子や尼か崎

江戸住
祖秀

むつきの来にかひろきぬるを

くふとて

かひるとやくゝりとふるんかな餅

餅花ハ柳か枝より咲くらかな

糸樋口平茶
道知

摂州大坂ノ住
如貞

父の手刺し小鼓をみて

ちゝとやなる小鼓乃花かな

越前ノ住
良卿

花乃繪ハさいしきともにさかりかな

佛師
正勝

愚判

よ子とも来るや啞唉太郎月
沙門 是交

さうとあれ花よりあこせ乃あらし哉
児山三郎兵衛 隈光

ある人いかくしき継子を泣
す法師になしけるをやふ春の
子花おもひ人のかすへゆるさそ
ひそかのふつゝかなす

継子にし着するやのりの花衣
稲田甚兵衛 信顕

花見に小袖きつるも又花見かな
摂州大坂松尾氏 昌次

善の指や着もなくさむ寝入の花
山城東寺ノ住 定久

・お然けり人のためにすゝめ
待つまと云物とせけるたより
ちる法かこそろれ華よむさまさき
待ふすけるへやきそろれ花作りて
なまあつぬハと兼れ花乃都もかな
内田氏 平吉
江戸昌雲軒 春清

くあそかわの色ハさ吉となる霞哉
江戸秋水十郎兵衛 重久

酒宴あるよ一さしまといふそ
え立あへすまして
江戸冨田三兵衛 基明

くあそ人の氣も引さるゝ霞哉
吉川三郎兵衛 長之

旅よりかへりける人の亭にて
月よ雪しなといふをみて

山さちハ霞乃さりてかへるかな

旅店まて紅梅白しといふ発句
人をとゝもりをとみて

京四条 花田氏
正久

紅梅ハ旅人とゝむるみやひかな

同播州多良氏
正安

海邊ハ魚も春な海さくらかれ

越州福井住
良卿

棟まてやおさまれてなくねかへるまて

松平小兵衛
信貫

穴をかへる蛇かへる田面かな

紀州和歌山日方氏
貞長

花かつらは桜乃筒此鼓かな

紀州池野氏
浄近

本願寺東寺まおおそ花
さやしをみて

一せいや風乃手鼓松はやし

勢州富田堀氏
忠勝

海苔乃名も佛や説し經此級

晶月

釈迦ハおまかこゑいのちふ涙かな

紀川三郎兵衛
長之

人のもとにて看てうするをみて

まないたハ風まうひゐね柳かな

敦賀野村氏
定利

うつし絵乃雪も消るや古屏風

東中条浅井氏
宗興

あら人はかんのまうし小池を
まて梅は當るを好きこ方をみそ
ていをとてかくやそまく金衣鳥　江州大津住出家　正次
風乃口もえ浄やち果き花さいつ不　京四条田中分業　正伯
先師死去百ケ日此追善よ
飲食乃百味よめくる春日かな　貞室
大海に盧承良と云人かる此
さく人傳るやよせて桃花まよ
・せらまれしかなみ

かえ山やつるく出る春日かな　日
三月三日住よしの汐干に
その鳥りの寺まて酒のそて　日
住よしやひしかも春乃海さうれ　日
雲まいろやくまね霧れ鳥る音　日

七巻内